

- 2012年・記録会は6月17日(日)HLGは吉見、PLGはグリーンパークです
- 2012年・記録会は7月15日(日)HLG、PLG共にグリーンパークです

もうすぐ夏です。田んぼには水が入り草原はみるみる緑に覆われ、墜落してもヒコーキが壊れないので好都合ですが回収は難しくなる。とは言うものの日本にはなかなか広い草原がない。関東近郊の草原というと吉見公園用地と甘田、それとやや小さいが渡瀬遊水池近辺がある。それともう1つやや狭いが大勢が集う瀬谷広場とグリーンパークがある。但し、いずれも我が家からは遠隔地で休日ごとに行くのは無理がある。気楽に飛ばすには近所の公園でごまかすしかあるまい。そうなるとうちでも小型機で、その上に飛ばない工夫をしたヒコーキに限られる。快感が得られて、且つ、なくなるヒコーキの工夫は中々に難しい。その点、翼弦5cmのLPは豪快に上昇して、適当に降りてくるの狭い公園用として素晴らしい。最近専らスケール機をやっているが、ネタが尽きてオートジャイロでも思っているが、さてどうするか。

- |       |                         |                |
|-------|-------------------------|----------------|
| 記録会報告 | ①②2012/4月記録会HLG/PLG、    | ③④2012/5月記録会報告 |
|       | ⑤子供・プロペラ飛行機             | ⑥平城京大会報告・高田    |
| お知らせ  | ⑦新潟FFC夏季合宿              |                |
| FFサロン | ⑧やまめ工房の日記より・HLGの翼弦他・石井満 |                |
| 雑談天国  | ⑨世界が注目する極東              |                |
| あとがき  | ⑩                       |                |

## ◆2012年4月記録会の報告(HLG/CLG)

### 4月HLG記録会報告

①……池田、三極、平尾

HLGの参加者は6名と少なかったですが気候は暖かくコンディションも絶好で楽しい例会でした。私は7時半に吉見に着いたのですがCLG、HLGともう参加者の半分近くが飛ばしていました。ここところ雨続きで皆欲求不満だったんですかね。いつもの上位常連組がいないので今日こそは自分が優勝だと張り切って競技開始です。吉岡さんが早々とAll-MAXで1抜け、結局半数がフライオフに残りました。フライオフはじっとサーマルを読んでいた野中さんが一発で入れて決まりでした。記録用紙を見ると野中さんは10投目でやっと5個目のMAXをとった様に見えますが殆どの発航でかなりの高度をとって調子よさそうに見えました。順当な結果のように思います。今日は皆さんがいなくて上品な会になってしまい少し寂しかった様に思います。次回はいつものようによろしくお願いします。それではまた。(以上池田)

### \* ペーパーブッシュの嘆きの言葉

前日の雨もスッキリ上がって春らしいポカポカ陽気、風もやや一定しない感じながら1~2mとこの時期とすれば絶好の気象条件。しかも今日は鬼も神もない。

日ごろ仙人並と称されている無欲な私を持ってしても、ヨコシマな気持ちを抑えることが……。

しかーし、ランチャーズには鬼と神の他にも、菩薩も、観音も、福音史家も、預言者も他にも色々いらっしやるので、とても偽仙人ごときがどうこうできる物では有りません(三極)。

\* 4月記録会は相沢怪鳥が仕事、平尾は目がダメで運転不如意で欠席、吉田さん仕事……。たった3人の欠席と思っていたら、どっさりと欠席だったようでヨコシマな集団戦いとなつたらしい。但し、50%の選手がフライオフ進出と成績は立派なもの。この成績だと吉岡の潤ちゃんが、どうやら野中選

手の毒舌にやられたのかな。もっと悪人になってください。池田選手は好調を維持しながらも、中々優勝が寄ってこない、どうして……。多分声は出ていたとは思うか。なぜか、稲葉選手は一頃のしゅうねんが失われたようだ。斉パパは、この日も楽しく飛ばしたようです。これもよし。。(平尾)

**4月HLG記録** 4月15日吉見公園、晴、10度、北風1~4m、60秒マックス5/10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F 1	F 2	総計
1	野中正治	52	60	60	51	51	60	60	43	10	60	300	120		420
2	吉岡潤一郎	60	60	60	60	60						300	65/48		365
3	池田昇	60	46	40	55	28	60	60	44	60	60	300	42/52		352
4	稲葉元	60	43	53	60	60	44	33	09	32	60	293			293
5	三俣豊	43	48	52	51	60	52	48	58	39	60	282			282
6	斉藤勝夫	28	60	58	58	22	32	60	34	32	32	270			270

注:フライオフは120秒マックス

**4月PLG記録会報告**

②.....工藤

桜も散り始め、いよいよ春本番で、上着を脱ぎ

ながらの記録会でした。天気は、晴れ、約 2メートルの風で、好条件が期待されましたが、開始直後はサーマルが全く発生せず、下降気流でスルスル降りてきます。各選手とも1回目のフライトではMAXはゼロ、3回目まででも3個しか出ていません。中盤から後半にかけて気流がよくなり、MAXが出始めましたが、全体的にMAXが出ていません。

3月の記録会では、77投中MAXは37個でMAX率48%、しかし今回は100投中22個のMAXで22%、半分以下というMAX率、記録も270秒以上は3人のみという厳しい条件下での記録会でした。その中で、梅澤選手と工藤が後半MAXを重ね、5MAXでフライオフへ。

フライオフは、気流による影響か、飛行機の性能か、低調でしたが、3回目の参戦で初のフライオフの末、梅澤選手が見事に初優勝を飾りました。PLGでは、昨年10月から連続優勝がなく、月替わりの優勝となっています。今日は岡田さんのご尽力により素晴らしいバルサを入手出来ましたので、次回の優勝目指して飛行機製作を始めましょう！さて来月は誰？ 以上工藤

**4月PLG記録** 4月15日吉見公園、晴、風1~2m、60秒マックス 5/10投

NO	氏名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	小計	F1	F2	総計
1	梅沢武久	10	27	07	25	60	60	49	60	60	60	300	29/41		341
2	工藤陽久	46	39	41	60	60	60	37	60	40	60	300	38/26		338
3	斉藤竹彦	25	23	60	60	38	60	60	43	43	26	283			283
4	岡田光正	32	60	30	60	49	29	48	14	39	47	264			264
5	吉本綾一	37	39	26	58	55	47	60	36	31	06	259			259
6	八木喜久江	34	60	08	31	39	43	60	34	40	48	251			251
7	河田健	36	39	03	31	56	35	49	55	51	35	250			250
8	大江賢	40	31	06	09	05	35	60	29	60	46	241			241
10	原国光	28	25	34	32	40	32	40	60	49	05	223			223
11	八木博典	12	36	07	30	51	06	19	31	44	51	213			213

## ◆2012年5月録会の結果(HLG/CLG)

### 5月HLG記録会報告

③……石井満、久保、平尾

2ヶ月ぶりに記録会に参加した。5月なので20度を超えて暑いくらい。わずか2ヶ月の差で現地の草もすでに胸近くもあり、草こぎに体力のいる競技会である。但し、草が深いのでドジっても機体は痛まない。この日は曇天、風がなく理想的なヒコーキ日和。久しぶりに田久保氏、熊谷さんが見えていて、更には昨年来入院していて津田さんが元気な姿を見せていた。ガンバレ。いつの間にか髯をはやした吉田選手、野中選手、石井満選手、吉岡の2選手(老若いる)、平岩選手、珍しく久保選手もいる。皆さん元気でご苦労さんです。やや遅れて斉藤パパ、池田選手、稲葉選手とメンツは揃った。風がコロコロ変わるので機体はあちこち、草深いので落下位置確認が難しい。(以上平尾)

\* 今日はランチャーズ例会です。埼玉県の北部にある広大な広場に6時半到着。気温15℃ぐらいでほぼ無風。少し肌寒い感じでした。広場は草が膝丈ぐらいで朝露びっしり。

朝7時、カップを着込んで練習開始。しばらく投げていなかったスパン1.1mクラスの屋外機の調整・練習です。微風用の1番機は今日は封印。普段あまり使わない2番機、3番機を調整しなおします。もともとインドアカテ4だったのを屋外用にコンバートした機体ですので静気流での素性は十分。

でも多少でも風が有ると不自然な動きをする機体です。突然ピッチングに入りそれが収まらなかったり突然スパイラルに入りそうになったりする機体でなかなか安定した飛行が出来ない。

今日は時間をたっぷり使ってこの2機を屋外用に調整し直すのが目標です。まずはスパイラル傾向を封印するためラダー量をかなり減らします。旋回直径30mほどだったものを50mぐらいに直します。翼上面の乱流コブコブを剥ぎ取り元のすべすべの状態に戻します。乱流コブコブに頼らずに浮の良い滑空を目指します。微妙に機首重りとエレベーターを変えながら最適値を探して10回ほどの調整飛行。2時間ほど掛けて2機とも見違えるような滑空と安定を取り戻したようです。作ってから6年ほど経つ機体達ですがまだまだやるもんですね。かつては世界記録を作った機体達ですからうまく使えばまだまだ軽く80秒超えてくる性能が残っています。

まずまず良い感じに仕上がって今日の競技はよみがえった3番機でどこまで行けるかテストです。

結果は6投5maxで予選通過。2分フライオフも運よく1投で決めて一等賞でした。来シーズンも実践で十分使える事が解りました。もうしばらく頑張ってもらおう事にしましょう。(以上石井満)

\* ランチャーズ5月例会に久々に参加。今日は、かなり体力消耗が激しかったので、手短にします。まず、結果からですが、3位でした。今回は、新作機はテスト飛行でノーズが破損。3号機(スタイロフォーム翼)は5MAX目で上空視界没。手持ちの機体は無しで、時間切れとなり、よってこれで終了。それでも、3位だったので、良しとしましょう。

上空視界没の経緯ですが、デサが効かずにとんどん風に流されながら上昇。30分位北西の方向に走って追いかけるも、最後は、北小学校辺りで上空視界没でした。一日に一度来るかどうかの強烈なサーマルに乗せてしまいました。かなり追い駆けすぎて、帰り道が解らなくなり両足がツツてしまい脱水症状になりかけました。有る程度飛びすぎたら、諦めることも肝心かも。

結局まともに飛ぶ機体が現在無いので、壊れた新作機の修理と、次回作の構想を練らねばなりません。だいぶ、翼端投げの機体の方向性というか、どの様に作ったら良いかが、つかめて来たので、早いところ次回作を作りたい。私の機体の方向性は間違っていないようです。

但し・・・デサの確実性という事で、ローターダンパーを使ってきたが、もう一度今回の失敗を教訓にして、このローターダンパーを改良するか、別の方向を考えるかしないといけないだろう。電子タイマーとか、RCデサも魅力的ではあります。(以上久保)

### 5HLG記録 5月20日吉見公園、晴、21度、1～4m、60秒MAX 5/10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	総計
1	石井 満	60	60	60	60	43	60					300	120		420

2	池田 昇	48	23	49	60	60	60	60	60			300	51/44	351
3	久保晃英	60	60	60	60	60						300		300
4	野中正治	02	60	54	46	57	58	56	46	60	60	295		295
5	相沢泰男	60	60	38	42	41	37	60	60	39	39	282		282
6	平尾寿康	32	47	46	37	60	45	60	51	55	52	278		278
7	稲葉 元	07	09	12	60	57	23	41	34	56	60	274		274
8	吉岡潤一郎	02	36	28	40	36	60	40	37	60	52	252		252
9	吉岡哲也	42	36	37	45	24	60	02	01	54	47	248		248
10	平岩 保	22	30	27	30	27	47	53	42	36	52	230		230
11	三俣 豊	60	60	0								120		120

## 5月PLG記録会報告

④.....工藤

初夏を思わせるような天気の中、当初、吉見公園の予定でしたが、草が伸びているとの情報から、急遽武蔵野中央公園での記録会となりましたが、YSFの前田喬さんのお仲間が参戦し、久しぶりに14名という大勢の参加者で記録会が開催されました。約1～2メートルの風で、好条件が期待されましたが、多くの参加者にフライオフのチャンスをとということで、MAX40秒、5/10で行いました。

早々に3連続MAXで斎藤選手が先行し、後を追いかけて吉本選手、工藤がMAXウを連ね、フライオフに進出。競技後半、風が出てくる中で、八木(博)選手、八木(喜)選手、大江選手が後半MAXを連発してフライオフ進出し、合計6人のフライオフとなりました。その他の選手も4MAXが2人、10位の選手も175秒と激戦の中での記録会でした。フライオフは、後半戦の連続MAXの勢いのままにサーマルを捕らえ、大江選手が72秒、八木博典選手が74秒で八木選手が4ヶ月ぶりに優勝でした。

前回優勝者が欠席でしたが、月替わりの優勝が続いています。今月から吉見公園の草が枯れるまでは公園での記録会となりますので、多くの方に参加していただきたいと思います。(以上工藤)

追記:今回は前田さんが白井の連中を引率して行って、スゴイ多人数の参加選手でランチャーズでのさばっていたベテランも泡食ったでしょう。但し、その前田さんが参加してないのはどういう事...

白井の皆さんは早めに帰ったようで酒豪(違いました、集合です)写真に写っていないのは、顔も解らないので寂しい。今回は白井の皆さんはゴム1gで、且つ、機体が小さかったらしい。次回はトレーナーを作って殴り込みの意気込みらしい。歓迎です。(平尾)

## 5月 PLG記録 5月20日 武蔵野中央公園 曇り後晴、風1m～2m、40秒MAX 5/10投

NO	選手名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	F1	F2	計
1	八木 博典	40	4	25	26	40	36	22	40	40	40	200	27/74		274
2	大江 賢	40	30	40	34	40	35	35	40	40	-	200	53/72		272
3	工藤 陽久	40	40	33	40	40	19	34	40	—	—	200	60/36		260
4	吉本 凌一	40	31	40	28	39	40	40	40	—	—	200	46/25		246
5	八木喜久江	39	29	40	37	40	40	40	33	40	—	200	37/40		240
6	斉藤 竹彦	40	40	40	34	40	20	30	40	—	—	200	18/18		218
7	河田 健	33	33	36	40	40	40	26	36	37	40	197			197
8	吉田 博	28	31	40	34	32	40	30	31	40	40	194			194
9	芳川 満	40	40	28	30	21	27	40	19	31	36	187			187
10	高橋 秀治	30	20	31	35	23	26	27	40	30	40	176			176
11	道山 鶴二	28	40	33	20	20	32	33	26	12	37	175			175
12	倉田 泰蔵	27	34	32	16	37	40	25	13	—	—	170			170
13	原 國光	26	13	28	27	27	40	30	27	30	34	16			162
14	高橋 徳雄	30	30	24	22	27	22	22	18	28	40	15			155

## ◆「工作教室」プロペラ飛行機を飛ばそう！その2の報告

⑤……相沢

5月27日(日)、『荒川総合運動公園「工作教室」プロペラ飛行機を飛ばそう！』のボランティア支援を行いましたので報告いたします。

3月4日に開催された同工作教室は大変好評で定員オーバだったこともあり、フォローも兼ねての開催とのこと。前回、子供50名＋付添者で溢れんばかりの賑わいだったので、今回は30名・付添制限で募集したらしい。今回も定員オーバで抽選を行ったということでした。(参加者は結局、保護者含め60名超でした。)

いつもの『ぷろぺら飛行機』を、製作30分、飛ばし会2時間でなぜか3月の50名の時の1.5時間より時間が掛かってしまった。高齢者ボランティアは体力限度オーバのようです。3月は寒かったので、屋外の飛ばし会の進捗が早かったようです。今回は屋外で遊ぶにはちょうどよい天気で全体的にのんびりムードだったのかも知れません。3回飛行の合計タイムで順位を決めましたが、次回以降は2回でないと体力限界かも。

結果とみれば、1位の少年は96秒、2位は88秒、3位は86秒で、19位まで60秒以上の成績。好天気のおかげでした。デモ飛行では、原さんの小型ライトプレーンが視界没、平尾さんの羽ばたき機がバタバタ、吉野さんの「飛びっ子」が視界没となり、一同唾然……！

今回も、ランチャーズメンバから、競技用ゴムの寄付、賞品の寄付、ワインダー巻きボランティアがあり楽しく遊べました。

■日本人のDNAは守られている話:

ワインダー巻きに列を作り、順番を待つ子供たちは明らかに、日本人のDNAは受け継がれています。ワインダーゴム巻き、そして前の子の飛行が終わるのを列を乱さず待つ姿、前の子の失敗飛行を見て気の毒がる姿は「日本人」でした。感心しました。

ボランティア参加していただいた、工藤さん、原さん、吉野さん、平尾さん、片岡さんありがとうございました。次のご協力、皆様よろしく願いいたします。(報告 相澤)

## ◆2012年平城京大会報告

⑥……高田富造

7月3日(日)、平城宮跡の広い草はらでライトプレーンとパークプレーン色々の催しがありました。

いろいろないわゆるパークプレーンを一堂に集める楽しいながらに真剣勝負の催しでした。いやはや、全国の名士が集う実はすごい大会なのです。もともとは故松本満夫先生の松本杯LP大会をKFCが引き継ぎ、場所を万博公園から平城宮跡に移り成長してきたものです。ライトプレーン競技の再興と進化に先鞭をつけたものと言えます。さらなる方向を暑く(熱く)語りながら一日を過ごしました。

お天気は梅雨前線の北上で心配させられましたが大丈夫でした。早朝は2mの北東の風のち一時は弱くなり、競技終了とともに6mぐらいの風になりました。胸をなぜおろしました。幸運でした。おかげさまで1分MAXで目いっぱいでしたのに決勝になって2分、3分で実施できました。

LPは関東から吉田さん、嶋田さん、菅原さん、坂巻さんなど精鋭がやってきましたが、地元勢の迎撃は凄かったです。1分MAXで8名が残り、2分MAXで3名。そのうち菅原さんが規定の3機を喪失して不戦敗で岡崎さんと寺川さんの決闘になりました。ときは1時15分、北側に出発点を移し、期せず同時発航。最初からぐんぐん上がるのが岡崎さん。初めはゆっくりに見えるのに追いつく寺川さん。

上昇パターンの考え方の違いでしょうか。やや位置を違えた為か高度は岡崎さんがだいぶ高い。

ところがいつもと様子が違ってややピッチング気味で高度を下げている。どっちかと観衆ははらはら見守る。ほとんど同時かなと時計に注目でした。じつに2秒差で岡崎さんの勝ち。これで菅原さんが3位で河合夫人が4位に続きました。高田選手はF1Bを見つけていただいた義理があつてか手加減？

いやいやなぜか凄い上昇の後スパイラル降下で49秒でした。

今回は風向きから東側のいわゆるダイケアセンターの森のそばから発航しました。森の影響で気流が乱れます。地元勢は承知していましたが関東からの皆さんには畏になりました。ミニクープはい

つになくにぎやか。今村選手や宇津選手、川阪さんが張り切りましたが脇田さんにはかないませんでした。高田選手は3機用意していながら水平尾翼をお忘れでした。

HLGはよい条件なのに結果は今一つに思えるのですがいかがでしょうか。難しい条件があったのでしょうか？CLGは1名でした。関西ではなかなか根付きません。草が深い今は大変ですが(高田)  
**\*HLG** 1年ぶりの平城京大会、昨年来、場所が変わって足場は良くなりました。そこで今年は普通の靴で行きました。当日は曇天無風の筈が曇天+パラパラ雨+風3~5mの風と苦戦しそう。その為か参加者も例年より少なく年寄りばかりだが、これはいつもの通り…。但し、草は深く(胸まで)回収はエライ事でした。風と草、さらに低空で旋回するHLGは、あちこちに立木があって落下地点の確認が出来ない。又、立木の陰で視界没が続出、結局10投出来た選手は3人/8人と少ない。最近はやりの電子タイマー搭載の機体を探すのに時間がかかり(無くすとお金が…)、回収から帰ってこない。何と伊東選手は落下地点は近いのに120cmスパン機が発見出来ずじまい。次回から大型機は発信器搭載ですね。次回からは飛行方向に立木のない発航場所が必須でしょう。(平尾)

LP

順位	氏名	1R	2R	3R	FO1	FO2	合計
1	岡崎一良	60	60	60	120	168	468
2	寺川進	60	60	60	120	166	466
3	菅原隆郎	60	60	60	120		300
4	河合圭子	60	60	60	118		298
5	吉田勝海	60	60	60	112		292
6	嶋田信	60	60	60	97		277
7	高田富造	60	60	60	49		229
8	川阪末継	60	60	60	13		193
9	三井隼	60	55	60			175
10	野々村義則	50	60	43			153
11	池田文丸	35	52	46			133
12	坂巻敏雄	60	60				120
13	梶原正規	60	47				107
14	荒谷靖久	60					60
15	岸田義和	60					60

ミニクーブ

順位	氏名	1R	2R	3R	FO1	FO2	合計
1	脇田佳子	60	60	60			180
2	宇津秀夫	51	44	56			151
3	今村利勝	55	60	12			127
4	川阪末継	50	56	4			110
5	佐々木俊和	55					55
7	高田富造						

ゴム動カスケール	1R	2R	3R	合計	
1	梶原正規	23	40	40	103
2	高田富造	25	14	11	50
3	平尾寿康	24	8		32
4	清水和夫				

HLG-A

順位	氏名	1L	2L	3L	4L	5L	6L	7L	8L	9L	10L	合計
1	伊東哲男	54	39	60	46	57	60	5	60	60	31	297

2	平岩保	44	25	27	53	60	34	60	40	60		277
3	掛山吉行	44	60	45	46	60	30	38	42	23	60	271
4	毛利修	28	37	5	12	9	48	49	60	45	60	262
5	吉田潤一郎	60	34	46	31	60	40					240
6	岡本淳	46	17	39	26	29	60					200
7	石井満	23	6	22	27	6						84
8	安野裕一	5	36	36								77

#### HLG-B

順位	氏名	1L	2L	3L	4L	5L	6L	7L	8L	9L	10L	合計
1	岡本淳	34	30	9	10	37	16	60	35	34		200
2	吉田潤一郎	52	53	22	22	36	20					185
3	平尾寿康	16	23	36	11	36	13	60	22	20	29	184
4	毛利修	39	28	28	24	23	29	35	26	21		159
5	石井満	19	17	20	5	19	5	32	27	5	10	117
6	植松徹哉	18	22	12	12	20	13	23	16	12	14	99
7	掛山吉行	21	8	37								66
8	安野裕一	18	34									52
9	平岩保	45	1									46
10	伊東哲男											

#### CLG

順位	氏名	1L	2L	3L	4L	5L	6L	7L	8L	9L	10L	合計
1	斎藤勝夫	28	8	27	29	25	27	27	51	9	27	162

### お知らせ

#### ● 2012年新潟FFC夏合宿のご案内 (予定)

⑦

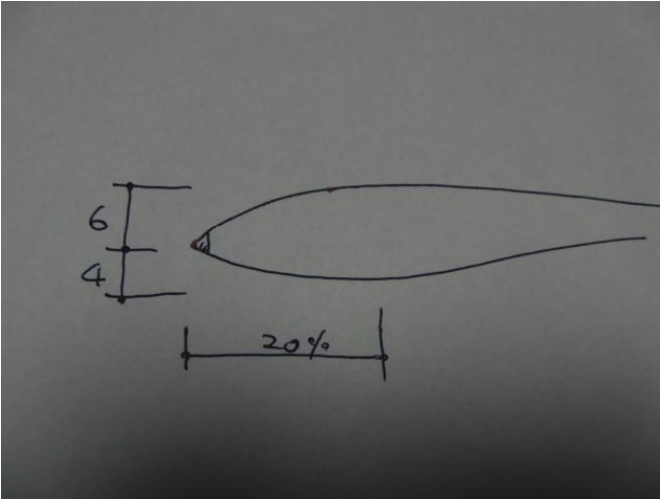
- 開催日時 2012年8月4日(土)、5日(日)、4日昼12時から5日午後3時頃まで
- 開催場所 新潟県阿賀野市阿賀野テクノタウン(飛行場は1km平方)
- 集合場所 同上 団地北部の池の畔(パーゴラ、トイレ、水飲場あり)
- 宿泊場所 新潟県阿賀野市保田6075-3 やすらぎ(温泉・テクノタウンまで2分)  
電話0250-68-1555 駐車場あり。
- 参加費用 9,000円、宿泊日の夕食を含む(アルコールと朝食は別途)、  
参加費は当日徴収します。
- 申し込み <http://www.yippee.ne.jp/launchers/event/event.html> からどうぞ。
- 交通案内 東京からは関越自動車道、又は東北、常磐自動車道経由で磐越自動車道で2つ目の安田ICで降りて、阿賀野市方向に進んで15分程度の位置です。
- 行事等 競技等はありません。新潟在住の模型飛行機愛好者(Uコン、ラジコン他)と全国の飛ばす場所に恵まれない方々との親睦を兼ねて、それぞれ好き勝手な模型飛行機を飛ばしましょう。希望する企画があれば、ご提案下さい。
- 申込期限 2012年7月28日頃まで

# FF文化サロン

## ●やまめ工房の日記より (HLG特集)

⑧.....石井 満

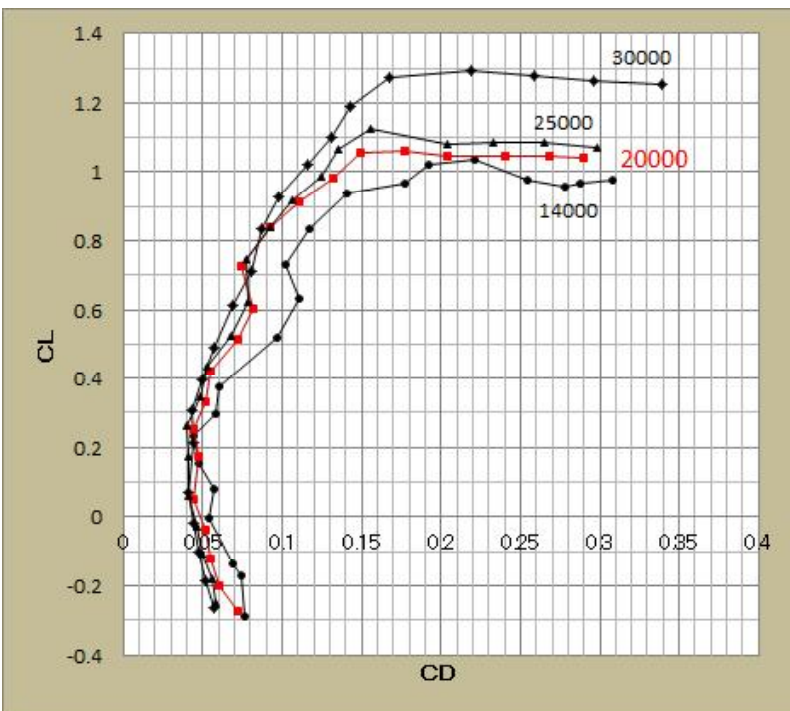
### 1. 前縁削ぎ上げ6対4 2012-03-29



最近強く感じる事。前縁削ぎ上げ量の違いで滑空性能が変わらない事。浮きを求めるなら削ぎ上げは少ない方が有利だろうと思ってきましたがどうもそうではないらしい。小型の Spann 400mm ぐらいまでの機体なら話は別だがそれ以上の機体なら前縁の上下振り分けは6対4で決まり。(Spann 40cm未満の最適翼型は手さぐり状態で訳が分からないのです) 7対3にしたら浮が改善するかと思えば滑空性能は変わらないというかかえって悪くなる印象。静気流なら幾らか浮が改善するのかもしれないが日中の空気だと駄々をこねるような感じになって安定感に欠ける感じがする。

一方獲得高度は6対4が圧倒的に有利。従ってトータルすれば断然6対4という事になりますね。私よりもっとハイパワーなら5対5も有りかと。後半のアンダーキャンバーで揚力稼ぐこの翼型だと前半で頑張るのはあまり得策でないのかも知れません。前も後ろもと欲張るとかえって空気に嫌われてしまうのかも最近思うようになりました。

FFを長くやってる方には削ぎ上げの多さに疑問を持つ方も多いはず。6356Bとかマカロフなんかをずっと見てきた目には一見性能ガタ落ちに見えてしまいますよね。実際同じ機体スペックで比べたことないけど滑空できっと1割ぐらしか性能ダウンしてないと思います。F1AやCなら高速時の抵抗減がもたらす効果は滑空性能1割減など見事に挽回できます。今の大型HLGを50m曳航索で飛ばしたとするとどれだけ飛ぶか・・・ 強度が持ったとすればの話ですが離脱速度50m/sと低めに見積もっても離脱後60mの上昇は間違いないので到達高度110m。沈下率35cm/秒の滑空性能です。314秒と計算されます。実に5分を超えてしまうんです。最近のF1Aと変わらない性能が約束されています。F1Cだって折り畳み翼にしなくて勝負になるんじゃないかと妄想してます。屋外FFで最強性能はHLGだと言えるかも。(ちょっと言い過ぎかな)



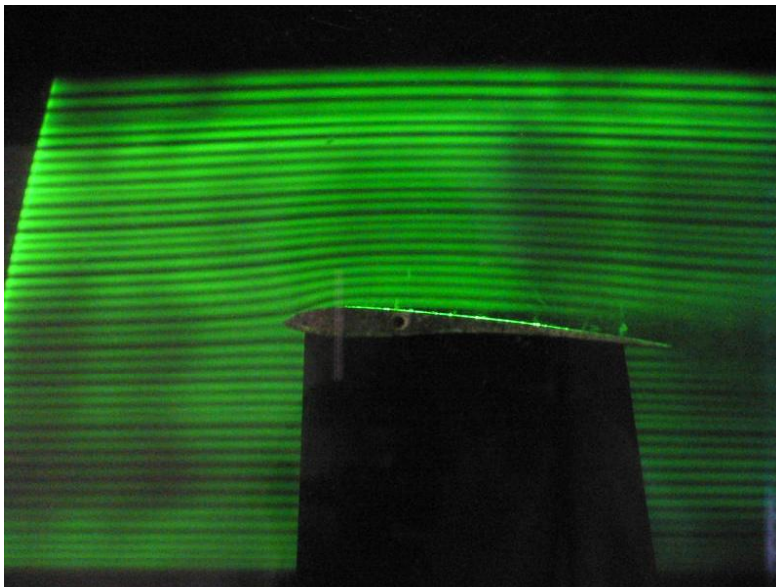
**2. 低CL時の後縁剥離か** 2012.4.02  
滑空時機体は気流の乱れによって迎角を変えながら飛んでいます。室内の静気流なら失速ぎりぎりの高いCLを保って飛ぶことが可能ですが屋外ではそうはいきません。RCHLGならエレベーターを操作する事で機速を上げて飛ばす事も可能ですがこうした使い方の場合は全迎角に於いてスムーズな空気力の変化が理想的です。



グラフは小型FFHLGの風洞試験ですがレイノルズ数14000、20000に於いてCL=0.6付近で抵抗が増える現象が見られます。RCだとこの部分に不満が残りますね。比較的走らせる飛ばし方の時がこの状態に有りますので走らせると滑空の伸びに不満が出る形です。原因は主翼上面の後縁側の剥離だと考えています。大きな剥離では有りませんので大幅に抵抗が増える訳では有りませんが出来れば無くしたい現象です。

YA翼型の上面ハイポイント後はフラットに近い部分が80%位置ぐらいまで続きその後フラップ状に下に折れ曲がった形状となっています。この折れ曲がった部分をきっかけに剥離が起きているものと思われます。もう少し迎角が増えると今度はハイポイント直後から剥離泡が出来て後縁側は逆に良く付着する流れとなるようです。風洞の可視化試験でもこの様子が僅かに確認できます。CL=0.3~0.6の範囲は上昇後半の伸びにも影響してきます。少しでも高度が欲しいカテ4ではこの部分が勿体ないですね。剥離が無ければ1mぐらい高度が増えるかも知れません。ということでこの折れ曲がった部分に乱流コブコブを増設して剥離を小さくする対策をテスト中です。屋外機でも何機か試していましたが特に悪さはしていないようですが微妙な違いらしく効果が有るのかどうか良く解らない感じでした。

### 3. 翼端側が抵抗 2012-04-03



レイノルズ数14000、迎角4°での可視化写真(写真をクリックすると全体表示されます)。上面70%付近から後ろ側が剥離しているのが解ります。昨日掲載した後縁側の剥離の様子です。こうなると抵抗が少し増える訳ですが主流全体は落ち着いているので抵抗値の増加は限定的です。上昇後半の平均翼弦でのレイノルズ数は流速5m/sとすると

$Re = 5 \times 0.08 \times 10^5 / 1.5 = 27000$   
従って写真のレイノルズ数よりも大きいです。しかし翼端側は楕円翼で絞っていますので翼端に近い部分では14000程度となりますね。主翼面積の3割程度でこの現象が起こっていると考えて良さそうです。

前縁5%位置に付けた乱流コブコブはカテ4で試したところ性能悪化をもたらしました。屋外機では有効な失速迎角付近での粘りの向上と引き換えに沈下率は若干劣るようです。上昇抵抗が幾らか増えるよう獲得高度もいまいち、結果的には5~10秒程度タイムが落ちる結果でした。(静気流性能100秒レベルの機体で)今度は前縁から75%位置の翼端側のみに乱流コブコブを増設してテストしてみます。この位置なら上昇前半の抵抗増加もほとんど気にならないはずですから上昇後半の抵抗減が幾らか効いて1m程度の高度増を期待しています。1m高度が増えれば3秒は稼げますので1段レベルアップという事になりますね。一気に10秒のアップといった大幅な向上は何か革新的な要素が加わらないと難しいのです。現状では小さくてもこうした物をこつこつ積み上げて数秒ずつ上げていくしかないでしょう。

### 4. 色々 (HLG翼の各種断面写真)

さてここ10年来使い続けたYA翼型ですが新鮮味が無くて最近ときめきません。一般的になったという事なんだろうがもっと良い翼型が無いか試してみたくなってきました。FFHLGのレイノルズ数でこれ以上の翼型はないと思い込んでいますがどこかにぼろっと斬新なのが落ちてないか探してみ

るのも面白い。ある意味この翼型の使命のような物は終わった感が有るので新しいステージに進むべき時期なのかも知れません。次の玉手箱は何でしょうかね。(翼断面の解説は平尾)

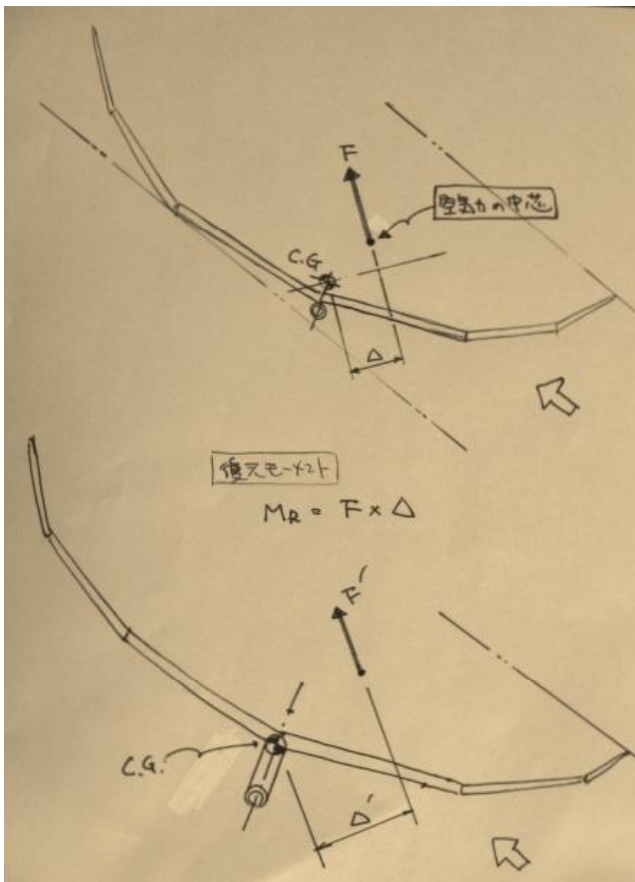


右上、薄翼、前縁削上50%程度その割りにフラップは大きい。



- ② 厚翼、前縁削上40%程度、下面フラップは大きい。
- ③ 厚翼、前縁削上30%程度、下面フラップは大きい。
- ④ 薄翼、前縁削上30%程度、下面フラップは大きい。

#### 5. サイドスリップと復元力 $\propto$ ヨー抵抗 2012-05-14



FFHLGの強い上反角は強いロール安定をもたらします。機体が傾くとサイドスリップを起こします。サイドスリップを伴わない軽微な傾きの場合は左右揚力の差で復元力がもたらされると考えても良いのですが、大きなバンクになると空気力にしろ抵抗成分が大きく少し事情が変わってきます。図のように30度ほどバンクして斜め右下にサイドスリップしている場合を考えます。機体全体の空気力をFとしますがこの位置は機体重心よりも上に有るためバンクを戻す復元モーメントを発生させます。復元モーメントの大きさは重心から空気力中心までの距離 $\Delta$ と空気力Fの大きさで決まります。復元モーメントを強くするには $\Delta$ を大きくするかFを大きくするか2つの方法が考えられます。 $\Delta$ を大きくするには上反角を強くしたりパイロンで嵩上げすることが有効です。Fを大きくするには翼面積とりわけ翼端の面積を大きくするのが有効です。

さて問題は翼端投げの場合。発射直後機体は45度ぐらいのヨー角度に達します。驚くほど大きなヨー角度で主翼は完全に抵抗の塊に変身します。

斜め45度から機体を眺めてみて下さい。正面から見える投影面積の何倍もの面積になっている事が解ると思います。斜め投影面積のほとんどを占めるのは主翼です。上反角が強いFFではこの状態では抵抗が大きくあつと言う間に速度を失う事になります。一刻もはやくこの状態を脱しない事には話にならない訳です。RCHLGのように僅かな上反角ならそれほど大きな抵抗にはならないはずですのでFFゆえの辛い所。

もし上反角を今の半分以下にできれば簡単に高度40mを超える事が出来るでしょう。しかしFFH LGでは大きな垂直容積の副作用で滑空時スパイラル傾向を排除できず、必ず大きな上反角が必要になるのです。FFとRCの性能差はこの部分による所が大きいのです。主翼パイロンは重心を下げてロール復元力を増す効果が高いです。屋外用のHLG-Aならこの効果は絶大です。ただし発射直後のヨーを起こしている状態ではパイロンがエアダムとなり抵抗が相当増える事になります。重心付近や機首側にある側面積は抵抗を増やすばかりでヨー復元には悪影響しかもたらしません。従ってタイム狙いのインドアHLGならヨー抵抗を下げる目的でパイロンは排除してしまいます。主翼下面に突起のない形状がベストです。

過去に実験した例ではスパン90cmクラスで30mmの主翼パイロンを付けた場合の高度減は約3m、タイムにして8秒ぐらゐは性能が劣る結果でした。しかし返りの改善には非常に有効で、投げの成功確率が格段に上がりますので主翼パイロンは時には有効です。私の場合はパイロンを立てる代わりに上反角をその分強めています。屋外機には通常より強い20%程度の上反角率を持たせるようにしています。記録狙いのインドア機の場合はぎりぎり返る上反量として12~15%ぐらゐです。広い会場で投げ失敗を続けても良いなら10%ぐらゐまで下げても良いのかも知れません。それだけでポテンシャルが10秒以上増える可能性が残されていますが狭い会場では勇気のいる選択です。

## ★ 雑談天国

### ★世界が注目する極東

⑩・・・平尾

#### 1. 中国は世界をリードできるか

ギリシャ文明(マケドニア)、長い寿命を誇ったローマ帝国、ベネチア、世界最大のモンゴル帝国等いずれの世界帝国も全て滅び去った。しかし、その文明は各国に引き継がれて生きた。近代ではフランス、イギリス、ドイツ、アメリカ等その文明と政治形態が憧れを秘めていた。世界をリードしたいずれの大国も、他国が憧れる文明を持っていた。文明がなくて力だけで覇権国になった例はない。

文明とはその地域、又は国の魅力ある装いである。

これまで世界をリードしてきた欧米には洋画を初め、風俗、文学、音楽、絵画、スポーツや娯楽等々数々の魅力ある文明があった。文明のない国は、どうあがいても世界のトップにはなれないのである。現在まで科学技術を梃子にして100年以上世界に君臨したヨーロッパは、今では没落を止めることが出来ずに苦しんでいる。アメリカはまだ頑張っているが最盛期は過ぎたようだ。

さて、今後世界をリードする国はまず欧州にはあるまい。旧共産国は文明を持っていないので覇権国になる可能性はまずあるまい。欧米でないとすると次はアジアだろう。

そのアジアの中で、日本は不思議な位置にある。アジアにあるのにどちらかと言うと欧米サイド側に付いて、トップ集団ではあったがNO. 1ではなかった。これからも単独リードする国はなかりう。

他国も日本は峠を過ぎたと思っているだろうが、不思議な事に現在も日本文明は世界から注目されている。不思議に人気ある日本の天皇制、プロレタリア革命が終わると王制が魅力ありげに見えるのか。ついで日本人には自覚がないが世界文化となりつつあるマンガ、ゲーム、コスプレ、それともうダメだと言われながらも頑張っている経済力や優柔不断な人間性、長寿命、生き方等々、我々自身にも理解できない魅力があるようだ。最近世界が気にしているのが日本人の食文化と日本語である。

変に売れている醤油、わさび、日本製マヨネーズ、和製カレー等々。それと言葉群、ワビ、サビ、シブイ、カワユイ、モットイナイ等々。しかしこれを今後どう生かすのか。これらで果たして世界を救えるのか。今後世界的な価値観が革命的に変わるとも言うなら別だが、どう踏んでも本命ではない。

だが文明を世界一長く保ってきた日本は、簡単にはへこたれない国だと思うが・・・。

本題に戻って、覇権国の第1候補、世界が注目している中国は残念ながら共産国だ。その性か政治経済的面で模範とすべきものはない。その中国の最大の欠点は魅力ある文明がないことだ。確かに古代中国は優れた文明があったが、現代中国には文明がない。現在の中国は魅力どころか、どち

らかと言うとコワイ国に思える。

中国は古来、自国の芸術を大事にしてこなかった(焚書坑儒)。儒教の勤勉実直等は中国や韓国では根付かずに日本でのみで理解された。さらに中国の古代芸術は本国で壊滅して大部分日本に残った。王羲之の真筆もあるとすれば日本だ(正倉院のリストにある)。仏教も中国韓国を通り越して日本において完成した。その為か現在中国には宗教がない。

文明が残った国は、王制の国か宗教国のみである。中国のモラルは全く信用出来ない。スポーツも平気でインチキするし娯楽もゲームもパクるので当分アカンでしょう。唯一誇れる物は中華料理だけか。今の中国には、あこがれを感じるものはない。中国はFFは一時強かったが今は見る影もない。

その中国の芸術分野がこれから発展するとして最低20年はかかるだろう。とすると近々には魅力ある文明は持てないと考えるべきか……。

では世界一を狙っている経済面はどうか。大量生産と言う事はそれに比例して廃棄物も増えものだ。しかし中国では作るのみで産廃のみならず膨大な生活ゴミ処理も現在社会問題となっている。

13億人は何にしても人が多すぎるのである。日本の10倍の廃棄物問題は、経験のない中国政府では、問題そのものが理解できないので何ら対策をこうじてない。国内の治安も問題があるようだし、こうなると経済大国になるのも怪しい。中国がダメだとなればインドはどうだろう。インドは宗教国なので、中国よりもモラルは高い。さらに神秘的等、何かしら魅力がありそうだ。人口は12億人とほぼ中国と互角である。とは言うもののインドは即検討する国かどうか……。

今回はひとまず、極東地域+中国に絞って探ってみよう。そこでまずは何故中国は優れた文明を失ったのか、又、世界はこの点をどう見ているのか、独善的な資料を以下に提示する。

#### 資料1. 清末の学者、辜鴻銘(グー・ホンミン)氏の言葉

2012年海南省海口市のネットに載ったもの。中国の伝統文化と西洋の言語・文化の両方に精通していた清末の学者、辜鴻銘(グー・ホンミン)氏の言葉である。

辜氏は、日本初代内閣総理大臣の伊藤博文に孔子の教えを説いたことでも有名で、四書のうち、「論語」「中庸」「大学」を英訳した偉人。そんな辜氏だが、彼はかつて中国文明の神髄を継承しているのは、中国人ではなく日本人であると話した。漢(25~220年)と唐(618~907年)で形成された中国文明は、元(1127~1279年)やその後の遊牧民侵攻により失われたが、日本はフビライ・ハーンの侵攻に耐え、中国文明の神髄を守った。そのため、中国文明を継承した日本人は唐代の中国人で、真の中国人である。(だけど日本人は日本人だよなー)。

#### 資料2. 中国の世界戦略に立ちふさがる「壁」[ヨアニスガツィオーニス、2010.9掲載より抜粋]

中国が国際社会を手中にするという論調はあまりに短絡的だ。グローバル大国としての中国がアメリカを超えるかどうかを論じる場合は特にそうだ。中国が外国のインフラ(社会基盤)建設計画に資金を提供する、中国企業が原材料への「貪欲な需要」を満たす契約を交わした——そんな話は山ほど報じられている。一方、欧米が同規模(またはそれ以上)の計画や契約に乗り出しても、メディアに取り上げられるのはまれだ。今の中国が大国の1つであることは確か。とはいえ重要な経済データ、あるいは文化的影響力や人道支援といったソフトな形の影響力に注目すれば、その力にはむらがあり、アメリカに勢いをそがれがちなことが見えてくる。

中国とアフリカや中南米との貿易は急増しているものの、アメリカの貿易拡大ペースはそれを上回り、貿易の範囲も広い。アジア諸国にとって中国は今や最大の貿易相手国だが、取引されるのは低価格製品が中心。高価格製品の取引を独占しているのはアメリカだ。経済だけでは覇権は遠い

アメリカがこうした地域に対して行う援助や直接投資の規模はいまだに中国をしのぐ。近年の中国はソフトパワーを強化しているが、この分野でもアメリカの独り勝ち状態は続いている。

「経済的影響力だけで世界の覇権を握った国は存在しない」とするのは、ケニア、ウガンダ出身のジャーナリスト、チャールズ・オニャンゴオボだ。「アメリカが覇権国になったのは教育、テクノロジー、(ハリウッド映画や音楽などの)文化、ビジネスやスポーツの力のおかげだ。中国は国際社会にとって極めて重要な国になるはずだが、覇権国家になることはない」

一因は、中国がアフリカ全土で展開しているエネルギー開発やインフラ整備計画で、汚職や手抜き工事の疑惑がいくつも取り沙汰されているからだ。中国への幻滅はアンゴラとナイジェリアでとりわけ大きい。両国は数年前まで、無条件の開発融資の約束や内政に口出ししない方針に魅了され、中国寄りの姿勢を取っていた。その結果中国とナイジェリアの2国間貿易の総額は06～08年の間に倍増し、70億ドルに達した(08年のアメリカの対ナイジェリア貿易の総額は420億ドル)。だがナイジェリアのヤラドゥア大統領は、スキャンダルや進行の遅れを理由に多くの中国プロジェクトを中止した。そしてアメリカはこのチャンスを見逃さなかった。米商務省によれば、今年に入ってから対ナイジェリア輸出は48%増大。ナイジェリアからの輸入(大部分は原油)も16%拡大している。アンゴラでも、状況は同じだ。同国の汚職監視団体マカの創設者であるラファエル・マルケスデモライスは言わせれば、「中国との取引にはびこる汚職や説明責任の欠如が、より持続可能な長期的関係を結ぶ上で障害になっている」。

いい例が75年の独立以来、初の医療機関として首都ルアンダに建てられた総合病院だ。中国企業が建設を請け負ったこの病院は「落成式から4年で崩壊し始めている」と、マルケスデモライスは話す。総合病院は7月、施設の安全性に問題があるとして患者とスタッフを避難させた。

いざという時に頼りになるのも中国ではなくアメリカだ。今年7月ウガンダの首都カンパラで連続爆破テロが発生し、85人を超える死者が出た。ムセベニ大統領は事件前、自国の民主化ペースをめぐって米政府と辛辣な応酬を交わす一方、中国との関係を強化していた。ところが事件直後、ムセベニは中国政府ではなく米政府に助けを求め、捜査員の派遣など2400万ドル相当の支援を受けている。

中国の台頭はアメリカに世界への関与を迫るという意味で、他の国々にもプラスになる。

### 資料3 インド人の中国イメージは「ビンボーな覇権国」「パクリ超大国」

2010. 3、中国紙・参考消息(電子版)のコミュニティーに翻訳記事「インド人が見た中国＝貧しい世界の覇王、パクリ帝国」が掲載された。コメント欄を翻訳、紹介したもの。

元記事は、2030年に中国は中所得国でありながらも超大国になるだろうと予測。対外関係よりも国民生活の向上に注力し、政治体制の変革などはないのではないかと分析している。

インドのネットユーザーは次のようなコメントを残している。「米国と中国の違い。米国経済がナンバーワンの時、他のすべての国が米国を頼る。中国がナンバーワンになったら？中国は他のすべての国に頼る」「貧乏人に金持ちになったらどう変わると聞いても想像できるはずがない。中国も金持ちになれば言うことが変わるはず。きっと私たちにはいかなるぜいたくも許さないだろう」

「2030年に中国が超大国になる？インド人にとってはいいニュースだ。そのころにはインドは中国の一部になっているだろうから。インド政府に感謝だな。世界2位の経済大国の一部にしてくれるっていうんだから。さて、中国語の勉強と豚肉料理に慣れる準備でも始めるか」

「中国ってパクリの同義語だよな。パクリ超大国ってわけだ」

「中国の辞書には品質という言葉がないらしい」

「超大国・中国は無駄なごみを作り出して地球を埋め尽くすだろう。全中国人は奴隷のような勤勉さでごみを作り続けているのだから」

### 資料4 中国の「ウィンウィン関係」とは 田中宇氏の「米中逆転」・角川 oneテーマ 21

「昨年(2009年)、米国が中国に提案した「米中G2」の構想などを見ると、中国が世界中を支配するかのような印象があるが、実際には、中国が支配(影響力を国際行使)するのは、東南アジア、朝鮮半島、モンゴル、中央アジアといった、伝統的な中国の影響圏だけである。日本は、文化的に中国の影響圏内だが、政治的には中国と上下関係(冊封)を本気で結んだことがない影響圏外にいる。

中国は影響圏内では、自国の安定と発展を維持するため、他国の内政に隠然と干渉する(表向きは内政不干渉を掲げている)。その外の地域では、中国は「支配」を重視する「帝国」ではなく「儲け」を重視する「多国籍企業」に近い振る舞いをしている。中国は、米英に比べると「支配」より「金儲け」(中国人が言うところのウィンウィン関係)を重視している。米英覇権は「支配」に力点が置かれていたので「軍隊」のイメージがあるが、軍事的解決には金がかかる。

中国は「覇権国にならない」「平和に台頭する」「安定を重視する」と宣言しているが、それは英米流の支配に力点を置いた覇権国にはならないという意味だ。中国は、コスト高になるので軍事支配をやりたくない。外交力を行使して隠然と内政干渉し、中国が儲かる体制を安定的に作ることが中国の世界戦略である(そもそも「外交」とは「隠然とした外国への内政干渉」のことだ)。

中国が言うところの「ウィンウインの国際関係」は「私たちは儲けますが、みなさんも儲けたらいいじゃないですか。双方が儲かる体制は、支配でない」という意味である。もちろん、ウィンウインの経済関係の枠組みができて、実際の儲けの額は、双方の商才に比例する。ウィンウインの関係を提唱する裏に、世界有数の商才を持つ中国人の自信がかいま見える。確かにアメリカは世界中に軍事基地を置いているが、中国はアメリカの様に不経済な事はしない。

日本のメディア(マスコミ)は官僚のプロパガンダとしての役割を担っている為、官僚の方針(米国従属)に沿った形で中国について紹介している事が多い。日本には米軍基地が必要だと官僚の基本的スタンスから、中国・北朝鮮・ロシアは脅威であるとの情報を流し続けなければならない。

しかし実際には、中国の軍事的脅威を強調するあまり、中国の真の怖さ(商売根性が旺盛)を見落とす事に成る。中国は経済的利益の為ならなんでもする。それこそ武力を持つての威嚇など朝飯前だ。だが、実際に武力を行使する事は殆ど無い。

現在中国は殆どのアジア諸国とFTAをすでに結んでいるし、ドル決済だけでなく、人民元による決済までもが行われ始めている。中国は軍事的な事で脅威な訳ではなく、軍事をも手段として活用する商売根性が怖いのである。中国は核を持たなければ国際社会では侮られる事を毛沢東の時代から既に分っていた。その為、国民を飢えさせても、先ずは核の開発を行い、その後順次兵器の充実と宇宙開発・海洋開発に力を注いで来た。こう言った中国の姿は覇権を狙っての物ではない。

軍事力が無ければ外交で優位に立てない。その為の軍備増強で有り、経済優位性を目的とした物であった。中国は良くも悪くもいまだに強烈な中華思想を忘れてはいないのだ。

## 2. 極東に重芯を移すロシア 【大紀元日本6月30日】

ロシア海軍は2013年までに、フランスから初めて購入するミストラル級ヘリコプター空母(強襲揚陸艦)2隻を、同国極東地域の太平洋艦隊に配備する計画を立てている。ロシアは軍事力の重心を西側ヨーロッパ地域から極東地域に移しているが、その狙いは中国をけん制することだ。また、この地域の経済や産業、人口などに与える中国の影響への警戒感が、空母配備の決め手となった。

昨年1年間、ロシア極東地域への中国の投資額は、ロシア政府の投資額をはるかに上回っている。近年、極東地域とシベリア地域の経済分野などに中国が積極的に進出を果たし、その影響力は中国の経済力の増強と共に拡大している。

中国の台頭を考慮すると、ロシアにとっても日本との協力は重要である。プーチン大統領は、極東ロシア地域の人口減少を安全保障上の問題と捉えている。極東ロシア地域の人口が減少しているにもかかわらず、国境を挟んだ中国側の人口は増えており、中国側の人口はロシア側のその約20倍である。プーチンは、人口減少を止めるため極東地域の経済を活性化させる必要があると考えており、この地域の資源開発が重要であるとみている。そのために日本との経済協力は重要であり、エネルギー協力を含む広範な協力関係の構築の必要性を理解している。ロシアが抱えるこうした極東の安全保障問題を多様な視点から議論する意義は大きいと思われる。

ロシアのメドベージェフ大統領は最近、英フィナンシャル・タイムズの取材に対し、中国の経済発展が及ぼすロシアへの影響に言及した。極東地域の市場には、中国からの食品や家電、洋服、靴などが溢れている。ロシア政府は、中国の投資で極東の発展を求める一方、中国の勢力拡大により極東地域がロシアから分離するのではないかと、との懸念を抱いている。ロシアと隣接する黒竜江省の僻遠の農村部は、いまや賑やかな都市へと変身を遂げている。ロシア政治軍事分析研究所フラムチヒン副所長は、「西側ヨーロッパ地域にとって、極東地域の状況を正確に把握することは難しい。ロシア人のほとんどは西側ヨーロッパ地域に住んでいるため、これらの不利な要素は、ロシア政府の警戒感を強めた」と指摘する。同氏によれば、これまでのロシアの太平洋艦隊の仮想敵は日本であり、陸軍

の仮想敵は中国だったという。

「アジア太平洋地域は、世界の政治経済の中心になりつつある。ロシアはヨーロッパ圏とアジア圏をまたぐ国であるが、これまでアジアをそれほど重視していなかった。ロシア政府の姿勢の転換は、自然の流れである」と述べた。(翻訳編集・張凜音)

9日午後4時ごろに4隻、8～10時に20隻が通過後、オホーツク海を北東に進んだ。24隻の露艦艇が宗谷海峡を通過したのは過去最大規模で、日本に対する露骨な挑発行為だ。(産経新聞9月10日朝刊より)。注: 軍事費・中国1430億ドル、ロシア720億ドル、日本593億ドル。この程度では大幅な増強は不可能である(ごむどり)。

これを見て、ロシア軍が再びソ連海軍のような大海軍復活を目指していると考えるのは明らかに間違いである。そんな軍資金はロシアにはないし、今回の24隻の中身も寄せ集めてやっとの陣容だ。

ロシア軍の軍事力の本質は、アメリカ本土を狙える戦略核戦力だけは完璧に維持して、アメリカを滅亡させる核戦力があることで、世界から一流国の待遇を得ようとしている。それ以外の軍事力で、通常戦力の強化・拡充は本気で取り組む意思も能力もない。

私は1996年にウラジオの軍港で、廃棄されたソ連軍の潜水艦が数十隻(100隻近い隻数)も港内に放置され、錆びて穴が空き、半ば沈んだ潜水艦群を見た時、これはソ連海軍の墓場だと感じた。

それらが今まで改善されたと思ったことは一度もない。ロシアで建造される原潜は戦略核ミサイル搭載潜水艦で、通常潜水艦のキロ級は中国やベトナムなどに輸出される外貨獲得用である。どんなに間違っても、今回の演習でロシア海軍が大海軍の復活を目指した示威行為と勘違いすることだけは避けて欲しい。2011.11.22 矢野 義昭

## あとがき

1. 久しぶりにバルサのグライダーキットを作った。このキットはハンガリー製で良くできていて、20年以上前にも1度作ったことがある。しかし、どう作ったかほとんど覚えていない。主翼のスパーは桧材が上下で4本もあり、上下スパーの隙間はバルサ横張りである。これでは弱いので面倒だがバルサ材を縦に入れた。さらに上下1本のみカーボンスパーを接着した。これで上下方向は強くなったが捻れには弱い。強くする方法としてカーボンリブキャップがあるが、そこまでやると重くなるので、今回はバルサの斜めリブを入れた。この程度の補強でも主翼の完成重量は94gにもなった。バルサキットは組み立てるのが楽しいが、カーボンDボックスほどの強度は望むべくもない。ノーズは木製なので無駄な部分は極力削り落としたが、さほど軽くはならなかった。フックは吉岡さんちのハチェックフック、タイマーは手持ちの30年前のKSB6分計である。被覆は丈夫なフィルム貼りとした。今回作って気がついたのは、グライダー用の手持パーツがそろそろ底をついてきた事である。残るはタイマーが3ヶ、フックが1ヶとなった。最近のFF模型屋が完成品を買うのはパーツがないからか。

2. クモの糸でバイオリンの弦、深みがある音

クモの糸を研究している奈良県立医大の大崎茂芳特任教授(65)(生体高分子学)が、クモの糸を束ねたバイオリンの弦は、広く使われるナイロン製の弦より強く、音質も優れているとの調査結果を、米物理学会誌「フィジカル・レビュー・レターズ」の最新号(13日発行)で発表した。既に各国の演奏家らから、問い合わせが寄せられているという。大崎教授は約35年間、クモの糸を研究しており、2年前に約1万本ずつより合わせた太さ0.75～1ミリの弦を作ることに成功した。

電子顕微鏡による調査では、より合わせることでクモの糸の断面は円形から多角形に変形することが判明。これによって円形のナイロンの弦に比べて強度は4割、弾性が3割増していた。音の周波数の解析では、高音域でナイロン弦の倍以上、強い音が出ることがわかった。プロ奏者にナイロンの弦のバイオリンと弾き比べてもらったところ、クモの糸の方が輪郭のしっかりした音で、柔らかく深みがあるとの評価を得た。(2012年4月20日読売新聞)。

3. 今年3月、運動っぽい競技が禁止されていたので、何年ぶりかで大、中ゴム動力機(F1B、G)の

調整に精を出した。ところが飛ばし方をすっかり忘れていたので焦った。最初にF1G。初めてみるとF1Hと比べると機体が華奢なので取扱に気を使い疲れた。ゴムを巻きはじめると怖くてフル巻きが出来ない。次に、これも怖くてフル巻きでの真上に向けての発航が出来ない。とは言え何回か飛ばすうちに慣れてきて、そこそこ勝負できそうになってきた。F1Gは翼面荷重が7g/dm<sup>2</sup>なので、やたらと滑空スピードが遅く、7、80mの高度があれば2分マックスは簡単であった。

次いでF1Bだが、こいつは丈夫だが大きいので取扱に慣れがいる。滑空テストにしても重いので、力を入れて投げる必要があるし、ゴム巻き後の発航も力業だ。さらにゴムが多い分ゴムを引っ張るのに根性がある。またゴムをぐいぐいと巻くのも力がある。練習を始めて結局フル巻き発航までいくのに1ヶ月かかった。どうやら飛ばせるようになると、さすがに大型の急上昇は素晴らしい。3月末には調整が完了して、行く準備を始めようと思っていたが右目の調子がおかしい。そうこうするうちに、現地の天候も怪しくなってきた。ましてや、新潟への長時間の慣れない片目運転にカーチャンが猛反対と来た。現地で瀬谷の仲間と一杯やるのを楽しみにしていたが、先方の幹事から電話が入ってきて天候不順で行かないと言う。ここで当方もガックリ来て、ましてや当日雪らしいとなったので泣く泣く中止とした。後でレポートを見ると、途中の道路も雪、現地も雪になったようで片目運転で行かなくて良かったと納得した。このところ新潟は縁がなく残念である。

4. ディ・ブラッシがそこそこ調子よくなったのでアイドルングをいじたら、エンジンが吹き上がって転倒した。その時減速プーリーのアルミシャフトを車止めぶつけて折ってしまった。駆動部品なので代用品は無理だ。そこで大阪のイタ車の代理店に電話すると、部品の直販はしないが代理店を通せばOKと言う。地元では取扱店がないので東京の業者を紹介して貰った。確認のためディブラッシのHPでパーツの値段を調べると2,800円である。しかし送料が問題なので調べて見ると、場合によって8,000円ほどかかるらしい。代理店で値段を聞くと11,000円程で納期は3ヶ月と言う。ま・イタ車に乗る場合、この程度の出費は当たり前のようなのでメールで頼んだ。今後は気をつけねば・・・。

5. 最近、折り畳み自転車に搭載するエンジンを見つけた。クラッチ付50ccエンジン、タンク、手動式スターター、アクセル、取付部品一式で値段は36,000円、重さは5kg程度で折畳み自転車簡単に取り付けられ、完成重量約20kgである。左後方に変芯して取付けるのが少し気になるが問題はなさそう。自作の場合の問題は後輪のリアハブを外してスポークにチェーン用歯車を取付ける事だ。素人にはリアハブは簡単には外せないなので、試しに手持ちの折畳み自転車をバラしてみた。ホームページで調べると高級品はリアハブ部分がカセット式になっていて、その外にあるナットで外すよう車輪と分解できるらしい。しかし、安物の自転車は車軸とリアハブそのものが直に組んであるらしい。試しに自宅の中国製を強引にバラした(正式な工具がないので金槌とドライハー等で)。すると驚いたことにリアハブ(5段変速)内部のボールベアリングがバラバラになって飛び出した。何とボールベアリングをグリースで固めて両サイドから受けを埋めて止めてあるだけ(大型ベアリングを使ってない)。慌てて土間に散らかったボールベアリングを拾い集めて組立てた。しかし、ベアリングが幾つ見つからないので、この自転車怖いから捨てるかな・・・。

自分で取り付ける自信のない人は、販売店に頼むと格安の折畳み自転車にエンジンを搭載して送ってくれるという。価格は約4万5千円、但し、公道を走る法手続等は自分でやること。